

計画地周辺

■ 設計主旨

地域特性並びに計画の基本的スタンス

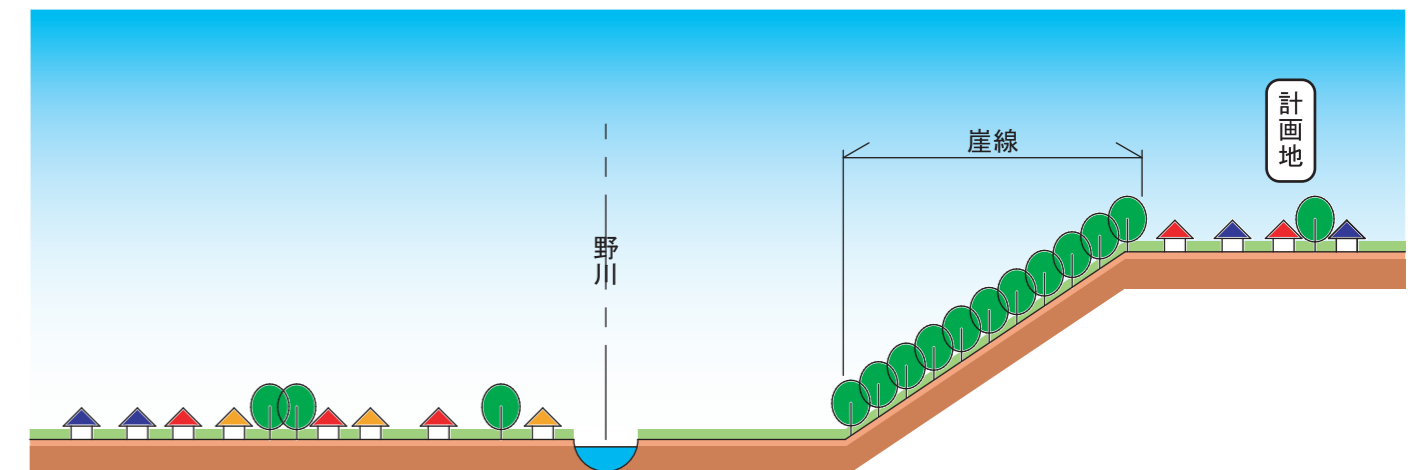
計画地は区が“水と緑の風景軸”と定め自然の保全を計る国分寺崖線に近接する。崖線に沿って緑と共に多くの生物が生息しているが、これらの自然を育むのに大きな役割を果たしているのが斜面林中や崖下に数多く見られる湧水である。近接する崖線の湧水は仙川～崖線間の計画地を含む狭い領域の雨水による浅層の地下水脈から湧出するものであり、その保全には雨水の地下浸透を維持することが必要であると区の広報は伝える。

この地域性に立脚して本計画では可能な限り緑地を確保することに併せ、建屋部分の雨水に対しては透水柵、透水管を採用し、又、空地舗装部分では透水材料を採用し、雨水を極力大地に帰すよう努める。

計画建物の軸線

計画建物の軸線を国分寺崖線に並行して設定する。そしてこの軸線に沿い住戸専用の9つの地下レベルから屋上迄のライトウエルを配する。計画建物地下ピットには少なくない湧水の滞留が柱状図から推察される。基本的スタンスに基づき湧水の下水道への直接放流は行わず建屋部分の雨水同様に大地への浸透を計り、一部をライトウエル床面を循環流動させる。水面はライトウエルに上下気流を生じさせ住戸各階に風道を用意することにより快適な風が住戸を通り抜けよう。隣接するライトウエル間はガラスブロックスクリーンで仕切られる。このスクリーンは住戸の独立性を確保しつつ天空よりの光を倍加する。

風、光を増幅させる装置としてのライトウエルを配した本計画の軸線をパッシブデザイン軸と名付ける。



計画地付近 (A-A断面)



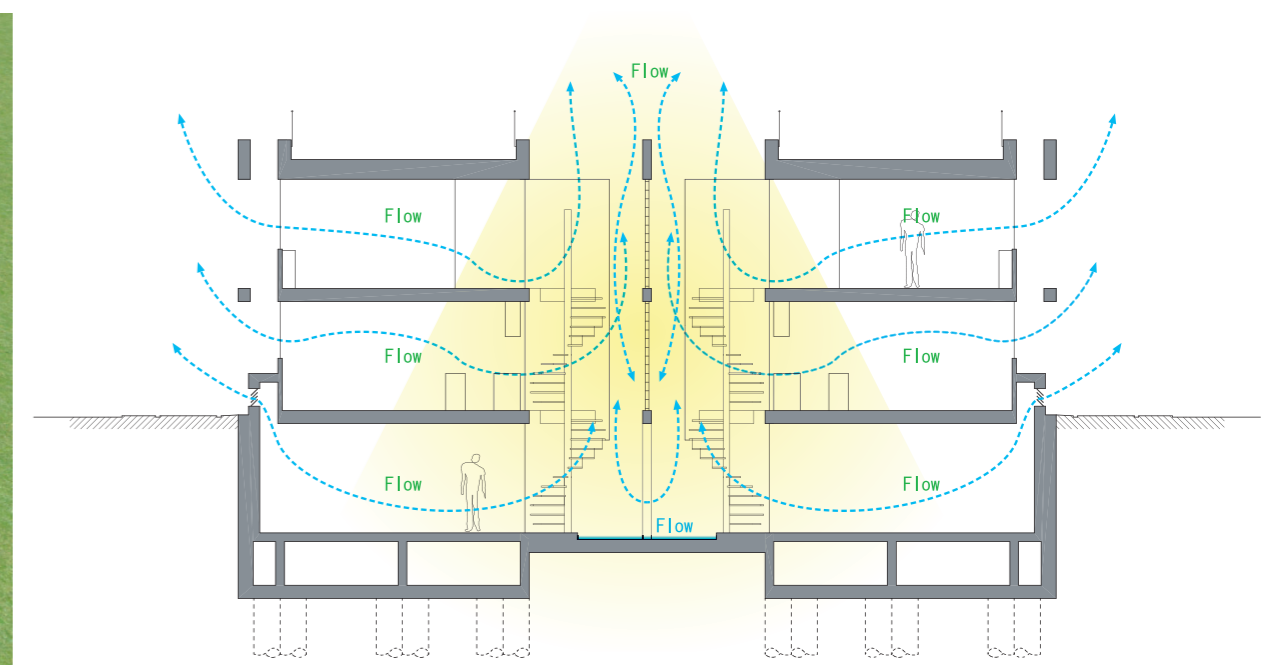
ライトウエル見上げ



ライトウエル見下げ



俯瞰



光・風・水 イメージ図